



OMRON

2016年度

第3四半期決算

投資家様向け説明会

2017年1月31日
オムロン株式会社



EARTH-1 STAGE

発表のポイント

■ 3Q累計実績

- 3Qは好調に推移し、3Q累計では増益。
為替影響を除くと、増収・大幅増益。
売上総利益率は向上しており、稼ぐ力は着実に改善。

■ 通期見通し

- 制御機器事業が好調に推移。足元の円安も反映し、
通期見通しを上方修正（現通ベースでは増収増益）。
なお、営業利益は期初計画の630億円を上回る見通し。
- 年間配当額予想は68円とし、前回予想を据え置く。

目次

1. 3Q累計実績 P. 3

2. 通期見通し P. 11

3. 参考資料 P. 21

3Q累計実績

3Q累計実績



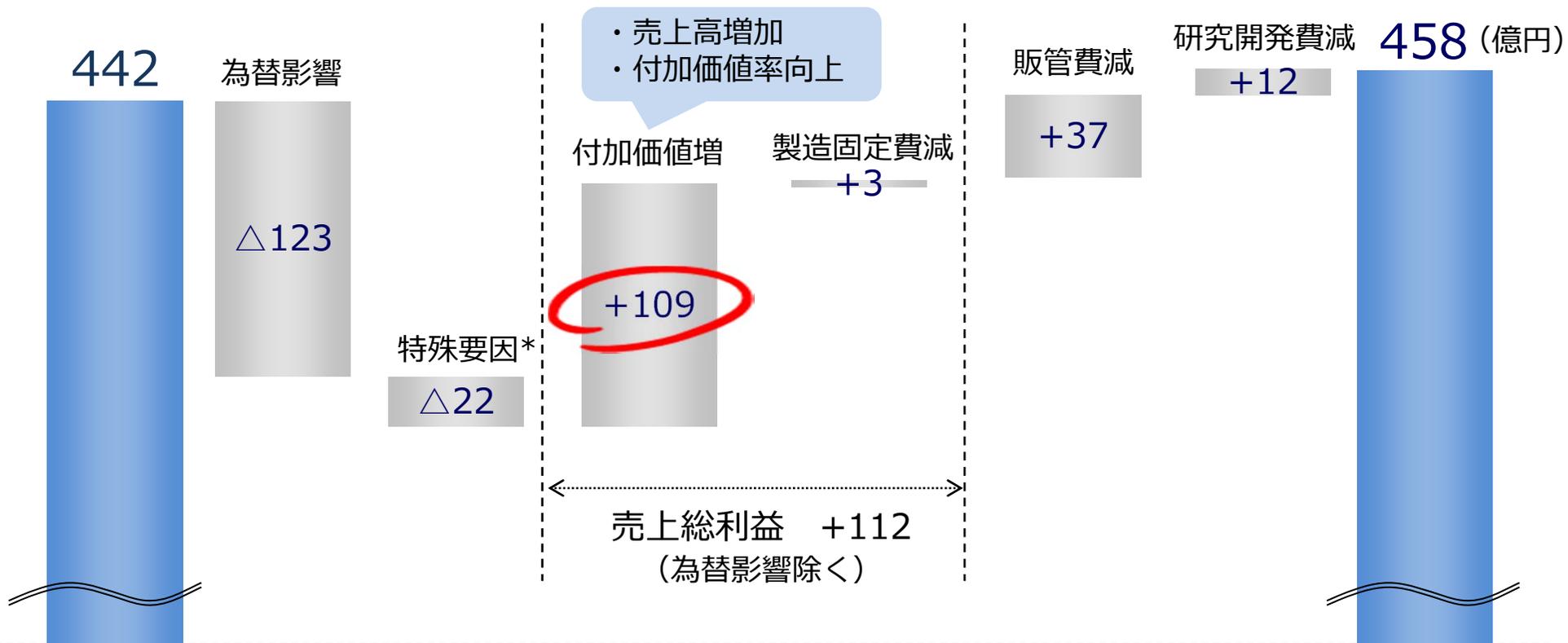
3Q累計実績

**営業利益は前年同期比3.7%増。為替影響を除くと、増収・大幅増益。
売上総利益率は1.1P向上しており、稼ぐ力は着実に改善。**

	2015年度 3Q累計実績	2016年度 3Q累計実績	前年同期比・差	(億円) 前年同期比・差 (為替影響除く)
売上高	6,140	5,687	△7.4%	+2%
売上総利益 (売上総利益率)	2,374 (38.7%)	2,240 (39.4%)	△5.6% (+0.7P)	+5% (+1.1P)
営業利益 (営業利益率)	442 (7.2%)	458 (8.1%)	+3.7% (+0.9P)	+31% (+2.1P)
当社株主に帰属する 四半期純利益	339	306	△9.6%	+27%
USDレート (円)	121.5	106.9	△14.6	
EURレート (円)	133.5	118.7	△14.8	

営業利益増減 (前年同期差)

付加価値の増加により増益を達成



2015年度
3Q累計実績

* 退職給付引当金繰入 $\Delta 14$
外形標準課税 $\Delta 8$

2016年度
3Q累計実績

事業セグメント別 売上高

制御機器・車載・ヘルスケア・本社直轄事業は為替影響を除くと増収

(億円)

	2015年度 3Q累計実績	2016年度 3Q累計実績	前年同期比	前年同期比 (為替影響除く)
制御機器事業 (IAB)	2,516	2,400	△4.6%	* +5%
電子部品事業 (EMC)	787	689	△12.5%	△2%
車載事業 (AEC)	1,040	969	△6.8%	+5%
社会システム事業 (SSB)	449	346	△23.0%	△23%
ヘルスケア事業 (HCB)	810	760	△6.2%	* +5%
本社直轄事業 (その他事業)	501	486	△3.0%	+4%
本社他 (消去調整含む)	37	37	+1.3%	+3%
合計	6,140	5,687	△7.4%	+2%

* オイル&ガス事業除く +8%、医療機器事業除く +6%

事業セグメント別 営業利益

制御機器・電子部品・車載・ヘルスケア事業は為替影響を除くと大幅増益

(億円、%：営業利益率)

	2015年度 3Q累計実績	2016年度 3Q累計実績	前年同期差	前年同期比	前年同期比 (為替影響除く)
制御機器事業 (IAB)	368 (14.6%)	371 (15.4%)	+3 (+0.8P)	+1%	+20%
電子部品事業 (EMC)	66 (8.3%)	71 (10.4%)	+6 (+2.0P)	+9%	+48%
車載事業 (AEC)	52 (5.0%)	49 (5.0%)	△4 (±0P)	△7%	+25%
社会システム事業 (SSB)	△27 (-)	△34 (-)	△7 (-)	-	-
ヘルスケア事業 (HCB)	63 (7.8%)	76 (10.0%)	+13 (+2.2P)	+20%	+53%
本社直轄事業 (その他事業)	△19 (-)	△14 (-)	+5 (-)	-	-
本社他(消去調整含む)	△61	△61	+1	-	-
合計	442 (7.2%)	458 (8.1%)	+16 (+0.9P)	+4%	+31%

連結貸借対照表

BS構造に大きな変化なし

(億円)

	2016年3月末	2016年12月末	前年度末差
流動資産	3,896	4,185	+289
有形固定資産	1,466	1,270	△196
投資その他の資産	1,472	1,420	△51
資産の部合計	6,833	6,875	+42
流動負債	1,627	1,557	△70
固定負債	736	642	△94
負債の部合計	2,363	2,199	△164
株主資本	4,447	4,659	+212
非支配持分	23	18	△6
純資産の部合計	4,470	4,676	+206
負債及び純資産合計	6,833	6,875	+42
株主資本比率	65.1%	67.8%	+2.7P

【上期実績】 制御機器事業 中国での成果

【再掲】 前回説明会資料

中国では現通ベースで9%増収させ、特に注力業界では24%の増収を達成

幅広い商品ラインナップ
+アプリケーションパッケージ

注力業界



- ・ 商談1件あたり採用アイテム数増加
- ・ 新規顧客数拡大

【3Q累計実績】 制御機器事業 中国での成果

中国では注力業界で大幅増収を実現

注力業界売上高
(前年同期比、現通ベース)

上期実績

3Q累計実績

中国

+24%  +38%

通期見通し

通期見通し



4Q エリア別事業環境認識 (2Q時点の見通しからの変化)

米国での新政権発足に伴い、グローバルで不透明感があるものの、緩やかな回復を見込む

<国内>

円安により、設備投資環境は緩やかに改善

<海外>

米州 : 米国は雇用回復と堅調な個人消費により堅調継続

欧州 : 景気は緩やかに回復

中国 : 景気減速が一服

アジア : 韓国は半導体、有機EL投資が拡大

4Q 事業セグメント別事業環境認識 (10月時点の見通しからの変化)

**制御機器・車載事業は4Qに事業環境の改善を見込む。
制御機器事業は、3Qに続き中国・韓国・日本でデジタル投資が好調。**

	前回見通し (10月時点)	今回見通し (1月時点)
	4Q見通し	4Q見通し
制御機器事業 (I A B)	→	↗
電子部品事業 (E M C)	→	→
車載事業 (A E C)	→	↗
社会システム事業 (S S B)	→	→
ヘルスケア事業 (H C B)	→	→
本社直轄事業 (その他事業)	↘	↘

4Q 事業セグメント別事業環境認識 (2Q時点の見通しからの変化)

制御機器事業 (I A B)	<p>国内：デジタルは堅調継続。</p> <p>海外：中国はデジタル、自動車は堅調継続。アジアは韓国におけるデジタル投資が好調。米国は新政権発足に伴う不透明感あり。</p> <p>欧州はユーロ安により、機械輸出の回復を見込む。</p>
電子部品事業 (E M C)	<p>業民：欧米を中心に緩やかな回復を見込む。</p> <p>車載：中国は環境対応車向け市場が堅調継続。</p>
車載事業 (A E C)	<p>国内：軽自動車市場は底を打ち、緩やかに回復。</p> <p>海外：北米は堅調もピークアウト懸念が継続。中国は減税の延長により好調継続。</p>
社会システム事業 (S S B)	<p>駅務：更新需要に大きな変化はなく横ばい。</p> <p>環境：太陽光発電市場は緩やかな回復傾向。エネルギー使用合理化市場は堅調継続。</p>
ヘルスケア事業 (H C B)	<p>国内：オンライン市場は堅調継続。</p> <p>海外：新興国の需要は堅調継続も、インドは高額紙幣の廃止により低迷。</p>
本社直轄事業 (その他事業)	<p>環境：パワコンの需要は緩やかな回復傾向。</p> <p>バックライト：ハイエンドスマホ市場の需要は低調。</p>

通期見通し

**通期見通しを上方修正。現通ベースで増収増益見込み。
(営業利益は期初計画の630億円を上回る見通し)**

※ 4Qにおける為替レート的前提は、USD110円、EUR120円

	2016年度 見通し(前回)	2016年度 見通し	前回見通し比・差	前年度比・差	前年度比・差 (為替影響除く)
売上高	7,650	7,800	+2.0%	△6%	+2%
売上総利益 (売上総利益率)	2,975 (38.9%)	3,065 (39.3%)	+3.0% (+0.4P)	△4% (+0.8P)	+5% (+1.1P)
営業利益 (営業利益率)	550 (7.2%)	640 (8.2%)	+16.4% (+1.0P)	+3% (+0.7P)	+26% (+1.8P)
当社株主に帰属する 当期純利益	400	440	+10.0%	△7%	+14%
USDレート (円)	103.7	107.7	+4.0		
EURレート (円)	115.0	119.1	+4.1		

事業セグメント別 売上高通期見通し

制御機器・ヘルスケア事業は現通ベースで増収。両事業が全社を牽引。

(億円)

	2016年度 見通し(前回)	2016年度 見通し	前回見通し比	前年度比	前年度比 (為替影響除く)
制御機器事業 (IAB)	3,120	3,230	+3.5%	△4%	* +4%
電子部品事業 (EMC)	930	920	△1.1%	△11%	△1%
車載事業 (AEC)	1,230	1,290	+4.9%	△8%	+2%
社会システム事業 (SSB)	700	690	△1.4%	△11%	△10%
ヘルスケア事業 (HCB)	1,000	1,000	±0%	△8%	* +3%
本社直轄事業 (その他事業)	620	620	±0%	△2%	±0%
本社他(消去調整含む)	50	50	±0%	△6%	-
合計	7,650	7,800	+2.0%	△6%	+2%

* オイル&ガス事業除く +7%、医療機器事業除く +7%

事業セグメント別 営業利益通期見通し (前回見通し差)

制御機器事業の見通しを大幅に上方修正

(億円、% : 営業利益率)

	2016年度 見通し(前回)	2016年度 見通し	前回見通し差
制御機器事業 (I A B)	430 (13.8%)	494 (15.3%)	+64 (+1.5P)
電子部品事業 (E M C)	85 (9.1%)	89 (9.7%)	+4 (+0.5P)
車載事業 (A E C)	55 (4.5%)	66 (5.1%)	+11 (+0.6P)
社会システム事業 (S S B)	40 (5.7%)	40 (5.8%)	±0 (+0.1P)
ヘルスケア事業 (H C B)	80 (8.0%)	85 (8.5%)	+5 (+0.5P)
本社直轄事業 (その他事業)	△ 25 (-)	△ 28 (-)	△ 3 (-)
本社他 (消去調整含む)	△ 115	△ 106	+9
合計	550 (7.2%)	640 (8.2%)	+90 (+1.0P)

事業セグメント別 営業利益通期見通し (前年度比)

収益構造改革により、既存5事業は現通ベースで増益

(億円、%：営業利益率)

	2015年度 実績	2016年度 見通し	前年度差	前年度比	前年度比 (為替影響除く)
制御機器事業 (IAB)	479 (14.3%)	494 (15.3%)	+15 (+1.0P)	+3%	+21%
電子部品事業 (EMC)	85 (8.2%)	89 (9.7%)	+4 (+1.5P)	+5%	+37%
車載事業 (AEC)	73 (5.2%)	66 (5.1%)	△7 (△0.1P)	△10%	+17%
社会システム事業 (SSB)	32 (4.1%)	40 (5.8%)	+8 (+1.7P)	+25%	+25%
ヘルスケア事業 (HCB)	73 (6.7%)	85 (8.5%)	+12 (+1.8P)	+17%	+50%
本社直轄事業 (その他事業)	△41 (-)	△28 (-)	+13 (-)	-	-
本社他 (消去調整含む)	△78	△106	△28	-	-
合計	623 (7.5%)	640 (8.2%)	+17 (+0.7P)	+3%	+26%

1株あたり配当

年間配当額予想は68円とし、前回予想を据え置く

	中間配当 ＜支払い済み＞	期末配当 (予想)	年間配当 (予想)
--	-----------------	--------------	--------------

今回予想	34円	34円	68円
前回予想 (2Q決算時)	34円	34円	68円

OMRON

参考資料

参考資料



為替・原材料前提

足元の為替レートの変動を考慮し、4Qの前提を変更

■4Q前提 (前回見通し差)

為替

USD・・・110円 (+10)

EUR・・・120円 (+10)

1円変動による影響額 (通期)

	売上高 影響額	営業利益 影響額
USD	約35億円	約3億円
EUR	約9億円	約5億円

原材料

銀・・・66,000円/kg (±0)

銅・・・560円/kg (±0)

価格変動による影響額 (通期)

	変動額	営業利益 影響額
銀	1,000円/kg	約0.7億円
銅	10円/kg	約0.4億円

※ 新興国通貨等がUSD、EURに想定通り連動しなかった場合、感応度に影響を与える

ROIC逆ツリー展開

現場



KPI

改善ドライバー

注力業界/エリア 売上
 新商品/注力商品 売上
 売価コントロール
 変動費CD額・率
 失敗コスト率

一人当り生産台数
 自動化率 (省人数)

売上高人件費率

在庫月数
 不動産在庫月数
 債権/債務月数

設備回転率
 (1/N自動化率)

売上総利益率

付加価値率

製造固定費率

販管費率
 R&D率

運転資金回転率

固定資産回転率

ROS

投下
 資本
 回転率

ROIC

ROICの計算式

＜連結貸借対照表＞

科目	年 月末
資産の部	
流動資産	
...	
...	
有形固定資産	
...	
投資その他の資産	
...	
負債の部	
流動負債	
短期債務	
...	
...	
純資産の部	
株主資本	
...	
...	
...	
純資産の部合計	
負債及び純資産合計	

当社株主に帰属する
当期純利益

$$ROIC = \frac{\text{当社株主に帰属する当期純利益}}{\text{投下資本}}$$

$$\text{投下資本} = \text{純資産} + \text{有利子負債}$$

※投下資本は、前年度末実績および当年度の各四半期毎の実績または見通しを平均して算出

2014～2016年度における想定資本コスト：6%

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、平成29年3月期 第3四半期決算短信のP6「1. 当四半期決算に関する定性的情報

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

3. 当資料は「平成29年3月期 第3四半期決算短信」に準拠し作成しています。
差額、比率については百万円単位で計算し、四捨五入しています。

< I Rに関するお問い合わせ >

オムロン株式会社

グローバルIR・コーポレートコミュニケーション本部
経営 I R部

電話 : 03-6718-3421

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp